



## 東塔院跡地区

東大寺にはかつて大仏殿の東西に二基の巨大な七重塔そびが聳えていました。塔を中心に周囲には廻廊がめぐり、それぞれ東塔院、西塔院と呼ばれています。



発掘調査で検出した東塔の様子（北東から）



東塔院跡地区（令和3年12月10日現在）

平成27年度（2015）から、往時の東塔や廻廊の手がかりを得るために、発掘調査をおこないました。その結果、奈良時代の塔基壇の姿がよくわかりました。

これらの成果をもとに、現在、東塔院跡地区では奈良時代の建物基壇の復元整備を行っています。整備の完成予定図は下図のとおりです。整備事業は令和7年度（2025）の完成を目指して進めています。



東塔院跡地区の整備完成予定図